



通津小だより

令和6年度学校便り



第 4 号

岩国市立通津小学校 (0827)38-1011

自分のよさを知ろう よさを伸ばそう

学期末にお届けする通知表には、子どもたちの成長した姿が記されています。ぜひ、ご家庭でもお子様といっしょに1学期にがんばったことをふり返るとともに、お子様が自分に自信をもち、2学期に向けてさらに新しい目標をもつことができるように、ほめたり励ましたりしていただけたらと思います。

終業式では、子どもたちに「自分のよさを知ろう よさを伸ばそう」と自己肯定感を高めることをテーマに話をしました。日本の子どもたちは「自己肯定感」が他国と比較すると低いとも言われています。「自己肯定感」とは、「ありのままの自分を認め、自分の価値を感じることでできる心の状態」を指します。子どもたちには、少し難しいため、「自分のことが好き」「自分のよさがわかる」等の表現で「自己肯定感」について説明しています。では、どうすれば自己肯定感を高めることができるのでしょうか。自分のよさを自分で知ることとは、なかなか難しいように思います。自己肯定感を高めるには、それと同時に「自己有用感」を感じることも重要だとされています。「自己肯定感」の高い、低いの違いは「自己有用感」の差にあると言われます。「自己有用感」とは、「他者からの評価から生まれる自己肯定感で『自分は誰かの役に立っている』等、自分が有用だと思える感情」のことを指します。「他者からの評価」、つまり「ほめられる」「失敗しても挑戦したことを認められる」「感謝される」等が、子どもの「自己有用感」になり、「自己肯定感」を高めることにもつながるということなのです。他者とは一番身近な家族、友人、教師、地域の方等、子どもと関わる全ての人であり、子どもが育つ環境そのものでもあります。

自己肯定感を高める方法は、もちろんこれだけではありませんが、「ほめる」「認める」がその子どもがもつ可能性を伸ばすには、とても大切だということを改めて考えさせられます。

偶然手に取った1冊の伝記漫画に、幼少期の「自己肯定感」や「自己有用感」が人生を左右することになったエピソードが紹介されていました。その伝記の人物はケンタッキーフライドチキンでお馴染みの「カーネル・サンダース」です。

サンダースは父を早くに亡くし、家計を支えるために工場で働く母に代わって、幼い頃から家事を任されていました。7歳のある日、母に喜んでもらいたい一心で母に教わったパンの作り方を思い出しながら、一人でパンを作ることにチャレンジしました。工場に届けると、そのパンを母や工場で働く人々は見事な出来映えだと絶賛し、「おいしい」と笑顔で喜んで食べました。この経験により「食べ物で人を笑顔にしたい。食べ物で人を幸せにしたい。」という思いが幼少期のサンダースの心に深く刻まれます。その後、彼は40歳までに40種類以上の職種に就き、挫折も経験しますが、最終的に幼少期の自分の夢に立ち返り、「フライドチキン」で夢を叶えることとなります。40歳を過ぎた頃、たった6席の小さなレストランを開いたサンダースは、数十年後、店舗数を世界150カ国23,000店舗以上にまで広げ、「食べ物で人を笑顔にしたい。幸せにしたい」という幼少期の夢を実現させました。この夢を抱いたきっかけは、「7歳の時にチャレンジしたパン作り」とされています。7歳の時にパン作りにチャレンジし、褒められたという経験がなかったら、もしかすると「ケンタッキーフライドチキン」はこの世界に存在しなかったかもしれません。

さて、明日から子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。安全で楽しく、有意義な夏休みを過ごし、また元気な「おはようございます！」の声を校舎に響かせてほしいと思います。

保護者そして地域の皆様には、1学期の間、本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございました。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

行事予定

8月

- 13日(火) 学校閉庁
- 14日(水) 学校閉庁
- 15日(木) 学校閉庁
- 16日(金) 学校閉庁
- 18日(日) **登校日・親子奉仕作業**
- 21日(水) 小中合同職員会
小中学校運営協議会
- 30日(金) **始業式**



9月

- 2日(月) 給食開始
- 4日(水) 一斉下校
- 5日(木) 委員会活動
- 19日(木) クラブ活動
- 21日(土) 環境美化作業(CS草刈り・剪定)
- 24日(火) 社会見学4年生
- 26日(木) 宿泊学習5年生 ~27日(金)まで
- 28日(土) 通津中学校体育祭



コミスクひろば～学校のように紹介します～



クラブ活動のようす



通津小学校には「ボール」・「野球」・「バドミントン」・「パソコン・写真」・「家庭科（手芸・調理）」・「図画工作・イラスト」の6つのクラブがあり、4年生から6年生の子どもたちが、それぞれ自分の興味関心に合わせて一つのクラブに所属します。どのクラブも異学年交流を楽しみながら、生き生きと活動しています。

5年生 国際理解教育



国際理解教育の一環としてヘルシンキ大学の勝井教授とご家族を講師にお招きし、フィンランドの食文化や食料生産のようすについてお話を伺いました。5年生の子どもたちは、日本の食文化や農業のようすと比較しながら興味深く説明を聴き、熱心に質問していました。

小中合同CS避難訓練 ～いざという時に命を守る行動を！～

6月21日に地震・津波を想定した小中合同CS避難訓練を行いました。小中別にそれぞれ屋上に垂直避難した後、岩国市の危機管理課の方を講師にお招きし、防災教育講演会を実施しました。講演会には、中学生と4～6年生、学校運営協議会委員が参加し、家庭や地域でできる防災や岩国市の防災に関する取組について教えていただきました。

「日頃から防災に関して家族で話し合い、災害への備えをしておくこと」や、「いざという時に自分の命を自分で守る行動をとること」などの大切さに気付くことができました。



屋上への避難



運動場中央に集まり身を守る児童



防災教育講演会



走らず落ち着いて避難

「浮いて待て！」6年生が着衣水泳を体験しました！

空のペットボトルやビニル袋などを利用すると少し楽に浮くことができます。「落ち着いて浮いて待つ」ことが命を守ることにつながります。



いよいよ夏本番！水辺のレジャーを楽しみにしている子どもたちも多いことでしょう。しかし、その一方で夏は水辺の事故にも注意が必要な季節です。

水難事故は着衣の状態での不慮の入水によるパニックが誘因となることが多いそうです。そこで、不慮の事故に遭った時など、落ち着いた対応の仕方を身に付けることを目的として、今年度の水泳授業の最終日に「着衣水泳」の授業を行いました。

実際に衣服を着て、靴を履いたままの状態の水に入ると、とても身体が重く感じ、水着のように自由に動けないことに子どもたちは驚きの声をあげました。最初は着衣の状態で浮くことに難しさを感じたようでしたが、段階的に練習していくうちに、少しずつコツをつかみ、身体力を抜いて水の中で「背浮き」という姿勢で安定して浮くことができるようになりました。